

国立大学法人 電気通信大学 公開講座

エネルギー源の科学と工学 — 原子力と燃料電池 —

産業革命以後、エネルギーは文明を支える必須アイテムになりました。石炭や石油はすぐに使えるかわりにすぐに枯渇します。そこで登場したのが原子力エネルギーであり、燃料電池です。どちらも国が支援してきたエネルギー源です。

1回目は原子力発電を取り上げます。原子炉の中で本来何が起きるはずであったかをじっくり考えて見ましょう。元素の周期表や陽子・中性子・電子といったことばが出てきますが、皆さんの疑問に答えながら話を進めます。

2回目は燃料電池を取り上げます。水素が安価に得られるようになれば、据え置き型が主要なエネルギー源になる可能性があります。車載用はもう一歩です。電池とはいってもレモン電池や乾電池と原理が異なること、太陽電池やリチウムイオン電池との相違点もお話します。

第1回目 平成23年 6月4日(土) 原子力

第2回目 平成23年6月18日(土) 燃料電池

講師：林 茂雄(情報理工学研究科 教授・社会連携センター長)

時間：10:00～11:30 (1回 1時間半)

対象者：中学生以上一般の方

募集人員：40名以内

場所：電気通信大学 創立80周年記念会館3階リサーチ

東京都調布市調布ヶ丘1-5-1

京王線調布駅下車 北口より徒歩約5分

お申し込みは、ホームページ又は電話で

<http://www.ccr.uec.ac.jp/activity/kouza/index.html>

tel: 042-443-5138 (研究協力課)

当日の御参加も可能です。

